

【実践ノート】

「ありのままのあなたを受け入れます」

自立援助ホーム 若葉 施設長 川西 悦子

1. 自立援助ホーム

(1) 自立援助ホームとは

何らかの理由（虐待、ネグレクト等）で家庭に居られなくなった子どもたち、また児童養護施設等を退所しても就労等に困難を抱えた子どもたちが暮らすホームです。家庭で当たり前の生活を送ることが出来ず様々な困難を抱え、心に傷を負った子どもたちに安全で安心できる場所を提供して、自立への準備をする場所です。また子どもたちが退所した後も、行政や関係機関と連携して社会生活を支援しています。

(2) 自立援助ホームに入所してくる子どもたちの背景

ホームに来る子どもたちの多くは被虐待の子どもたちであり、ネグレクトされた子どもたちです。

- ① 学校や病院、近隣の方等から児童相談所へ通報され、必要であれば一時保護されます。
- ② 子どもは「家に帰っても親に殴られる。そんな家には帰りたくない」「家に帰ると家族（妹、弟達）の面倒を見ると言われ、しんどい、つらい」と自ら児童相談所へ相談に行く場合もあります。

入所時、子どもは「大人はみんな敵」「自分が助けてほしかった時に誰も助けてくれなかった」と社会や大人への怒りや憎しみ、大人が信じられない子どもたちが多いです。

本音は親に愛してほしかった、大切にしてほしい想いを抱えています。

2. 利用の流れ

児童相談所、その他関係機関からの依頼 → 見学・面談 → 本人の意思確認
→ 契約（委託措置） → 入所

※ 一時保護され児童相談所で家庭に戻ることが適切ではないと判断された場合は、児童養護施設、里親、自立援助ホームなどに入所できることを伝えられます。自立援助ホームで生活を選択した場合、見学・面談となります。

3. 自立援助ホームで暮らしている児童

こども家庭庁支援局家庭福祉課・障害児支援課「児童養護施設入所児童等調査の概要」¹（令和5年2月1日現在）によると自立援助ホームで暮らす子どもたちの入所経路は47.6%が家庭から、17.5%が児童福祉施設等から、その他さまざまところから来ています。この調査によると、入所時の年齢は総数958人中15歳が170人（17.7%）、16歳が301人（31.4%）、17歳が252人（26.3%）、18歳が182人（19.0%）、19歳が35人（3.7%）、21歳が1人（0.1%）、20歳、22歳は0人（0%）、年齢不明は17人（1.8%）です。平均年齢は16.6歳です。

在所期間は総数958人中1年未満が533人（55.6%）で最も多く、1年以上2年未満が247人（25.8%）、2年以上3年未満が102人（10.6%）です。

1 「児童養護施設入所児童等調査の概要」（令和5年2月1日現在）こども家庭局家庭福祉課、こども家庭庁支援局障害児支援課 令和6年2月発行（https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/8aba23f3-abb8-4f95-8202-f0fd487fbe16/5c104d63/20240229_policies_shakaiteki-yougo_86.pdf 参照 2024-7-1）を一部加工して作成）

4. 自立支援ホーム若葉

(1) 自立援助ホーム若葉の設立

「若葉」を設立したきっかけは、20年ほど前、私がボランティアで行っていた夜回りでの子どもたちとの出会いです。子どもたちは家庭環境による様々な理由や事情から深夜徘徊をしていました。親からの虐待やネグレクト、女の子は父親からの性暴力に耐えている。そんな子どもたちに関わりながら、いつか安全で安心できる居場所を作りたいと思い、色々な福祉施設での勉強を重ねました。

2020年、ある自立援助ホーム（兵庫県下）で勤務していた、野本（現在、副施設長）氏と出会い、施設を作りたい想いを伝え、「一緒に作ろう」と、2021年7月21日に一般社団法人を設立しました。

(2) 自立援助ホーム若葉の開設

2022年1月20日に自立援助ホーム若葉を、尼崎市に県下7ホーム目の施設として開設しました。女子6名定員の施設で、5LDKの一軒家で生活をしています。若葉の入所条件となる規定はあまりありません。

(3) 自立援助ホーム若葉での支援

- ① 若葉に来るまでは家庭で暴力の支配によって毎日が恐怖や不安の中で生きてきた子どもたちに、寄り添い安心できるような言葉がけをしています。
- ② 子どもたちにとって若葉が「安全基地」で伸び伸びと育ち、自己肯定感を高められるような「居場所」となる支援を心がけています。
- ③ 若葉では子どもたちの毎日の生活のサポートはもちろん、学校関係、職場関係、児童相談所等の関係機関と連携を取りながら、子どもたちが安定した生活をおくれるように支援をしています。

5. 若葉が目指すところ

～若葉が大切にしていること～

(1) Vision

子どもたちの「小さな希望」を大切に、自立を支援します。

成功体験の少ない子どもたちが「あきらめ」を選ばず、「小さな希望」を積み重ねて自己実現に至るよう援助します。

(2) Mission

- ① 自分自身をそのまま受け入れよう
自分の好きなのところも、嫌いなのところも強さも弱さも、全てを愛しいものとして受け入れられるように
- ② 他者を理解しよう
他者の良い所も悪い所も理解して、関係性を築けるように
- ③ 生きていく喜びを見つけよう
過去に囚われることなく、未来に希望を持って生きていけるように

(3) Promise

自立援助ホーム「若葉」は

安心して生活できる安全な居場所を提供します。

失敗しても繰り返しチャレンジできることを保証します。

6. 自立援助ホーム若葉での子どもたちの様子

(1) 現状と取り組み



現在、高校生2名、大学生3名、就労者1名の計6名が若葉で生活しています。入所時は、心に蓋をして私たち職員にはありのままの姿を見せてはくれませんでした。

毎日の生活の中で、子どもたちに寄り添い、対話をしていくことで、少しずつ自分の気持ちを出せるようになってきました。もちろん、試し行動や心ない言葉を投げかけられることも何度かありました。

一緒に生活をしていくことで、子どもたちは若葉にいる大人たちを信用していいのかな？裏切らないのかな？と、大人の様子を見ながら、少しずつ若葉にいる大人たちを信用して受け入れてくれているように感じます。子どもたちとの関係性を作るために若葉が大切にしていることは、子どもたちが出かけるとき職員が玄関まで行き「行ってらっしゃい」と顔を見て見送り、帰ってきたときは玄関まで出迎え子どもの顔を見て「お帰り」と声をかけます。子どもたちに作る食事やお弁当も、バランスよく残さず食べられるように工夫をしています。

一つ一つの声かけ、個別での対応を大切にしています。子どもたち自身、「自分は大切にされている」「自分は生まれてきてよかった」「愛されることの喜びに気づき、人にも優しくできる」と気づけるように日々の生活が安心、安全であって欲しいと願いながら丁寧に育てています。

毎日の関わりの中で、少しずつ子どもたちにも変化が見えてきました。学校や職場での友達や彼氏の話、進路の悩み等を職員に話すようになってきました。子どもたちの話を聞き、職員が応え、その大人の意見を参考にして自分で考え、再び自分の気持ちを素直に表現できるようになってきました。

若葉では、子どもたちに沢山の経験をしてもらいたいと、色々なイベントを考えています。去年は助成金を利用して東京へ行きました。初めて新幹線に乗った子どももいました。とても社会勉強になりました。また沢山のボランティアさんにも協力していただき、毎年、お正月に初詣に行ったり、花火をしたり、クリスマス会などは、毎年リコーダーの演奏を聴きながら、歌と一緒に歌うなどして楽しい行事を実施しています。また、食事、手芸、庭の手入れ等もしていただいています。



(2) アフターケア

開設して2年が過ぎ、若葉を巣立っていった子どもたちが数名います。一人暮らしをするようになり、一人で悩みを抱えてしまう子どもたちもいます。若葉では、自立支援担当職員が退所した子どもたちに、若葉で生活していた時と同じように、相談に乗ったりして支援をしています。子どもたちと連絡を取り、家庭訪問、食料支援等を行っています。必要に応じて関係機関等との連携を取りながら、退所後のサポートを行っています。

「自立」とは、子どもたちが何でも一人でできるようになることではなく、「自分でやろうという意欲を持ちながら、人と関わり、人に助けを求めて行けるようになること」と考えています。SOSが素直に出せる、助けを求められる子になって欲しいと考えています。社会に出て、色々な辛いことがあっても、「助けて」と人に言えれば生きていける。誰かが手を差し伸べてくれると子どもたちに伝えています。

(3) 子どもたちが抱えている問題・苦しみ

- ① 入所している子どもたちや退所した子どもたちの中で、人との関係性が取れにくい苦手な子どもたちが多いです。
- ② 親子関係が機能していない家庭で生活した子どもたちは心の傷が残り、精神的にしんどくなる子どもたちが多いです。
- ③ 虐待、ネグレクト等を受けた子どもたちの心の傷は深く、フラッシュバックが起きた症状に苦しめられています。

これまでの経験（虐待、ネグレクト等）でトラウマがあり、修復できていないことで、人とのコミュニケーションをとることが難しいこともあります。

このように心の傷を負った子どもたちに適切に対応をしていくためには、若葉内の職員、心理士等と相談し、関係機関等と連携を強化していくことが必要と考えています。

7. 今後の計画（思い）

若葉の定員は6名で、現在6名が入所しています。児童相談所からの入所依頼はとて多く、特に夏休みや長期の休み等は入所依頼が更に増えますが、依頼を断らざるを得ません。将来6名定員を9名定員にしたと考えています。運営現状は厳しいですが、困っている子どもたちを救いたい、子どもたちが笑顔で安心して生活できる居場所を作っていきたいと思っています。